

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4 2 9 2 4 0 0 0 5 0		
法人名	株式会社グループホーム湯之崎		
事業所名	おばま温泉グループホーム湯之崎（ユニットほてい）		
所在地	〒854-0514 雲仙市小浜町北本町字湯之崎9 0 5 番地 3 2		
自己評価作成日	平成25年12月14日	評価結果市町村受理日	平成26年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成26年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者様の看取りの経験を全員で積む中で、一人一人が経験値を上げていくのはもちろんの事、全員の意識を統一していった ご家族様からの過分なる感謝のお言葉に、職員の努力が認められた事に尽きると思われる</li> <li>・新しい入居者様に対する情報収集の意識はまだ薄いとあるが、一日も早く慣れて頂くとする気持ちは強く、他入居者様との関わりの仲介に入ったりイベントへの参加は全員でとチーム全体の団結が見える時もある</li> <li>・入居者様とお別れが続き、ご夫婦で入居されていた方でお連れ合いに先立たれた方の希望もあり、ユニット全体で小さいながらも精霊船を作り上げ、お盆には精霊流しに参加する事ができた事は、全職員の気持ちのこもった協力が非常に大きかった</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、小浜温泉街の中にあり事業所の風呂も温泉となっている。職員は、利用者と常に対話することでこれまでの生活を聞き出し、思いの把握に繋げている。利用者の自己決定を尊重し、能力を発揮させることを第一に考えており、まさに理念に沿った支援を実践している。リビングでは利用者が積極的に食事の後片付けや洗濯物のたたみなどを行う場が設けられている。又、利用開始後すぐにおむつからパッドへ移行するなど利用者の思いや願いを考えた排泄の自立に向けての支援であることも確認できる。更に、イベント時には職員と利用者が一緒におやつを作り、作った物を食べるなど生活が楽しくなる工夫もあり、職員と利用者が本当の家族のように生活している様子が窺える事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は玄関や事務所に掲示してありいつでも確認することができる 特に理念を唱える時間を設けてはいないが、毎日の申し送りや月毎のミーティング時に常に啓発できており、実践の努力も認められる	理念は、入社時に説明し、日々ミーティングなどで理解を促している。また、管理者と職員は利用者のその人らしさを尊重しつつ、バックグラウンドを理解することにより一人ひとりの能力を如何にして発揮していけるかを考えながら支援に結び付けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏休み期間中、自治会の回覧板により子供の数減少によりラジオ体操への参加を募られている現状を知り入居者様をお連れした 又、一年を通してほぼ全ての町の祭に参加しご家族様や知人に会われている 例年餅つき大会には地域の方を招待して喜ばれている	自治会に入会し、月1回の会議で地域の情報等を収集している。また、地元の湯まつりの手伝いや敬老会に参加し地域に溶け込むよう努力している。事業所主催の餅つき大会には地域住民の参加もあり交流を深めている。利用者が回覧板を持っていくなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において施設長参加のレビー小体型認知症研修会の研修報告書を説明した事があり、その内容を聞かれた民生委員の方より民生委員の研修会にて内容説明の依頼を受け、ホームにて説明会を行うという経緯があった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の入退去・入退院状況、その時々での取り組み・イベントやブーム等の報告を行い、それに対するご意見を伺っている こちらの情報発信はもちろんのこと、様々な角度からの情報を頂けるので大変有り難く、又職員への報告も都度行っている	会議は規程のメンバーにより2ヶ月に1度開催している。議事内容は近況や行事の報告、意見交換等となっている。メンバーより肺炎のワクチンを摂取してはどうかとの意見があり、現在、一人ひとりの家族に確認を取りながら摂取しており、意見を運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	小浜支所から突然の入居相談の申し出があり、出向くと入居希望ご本人様からの相談を受けられていた 当ホーム対象者(認知症)ではなかったが、市職員の方と一緒に相談に乗り説明を行った	2ヶ月に1度運営推進会議の報告を小浜支所の担当者へ行うとき事業所の様子等を伝える。また、小浜支所からの入居相談に応じるなど協力関係を築いている。なお、介護相談員の受入れも行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご家族様のご理解の下転倒の危険性のある方の布団の下にセンサーを設置させて頂いているが、それ以外の身体拘束や過剰な薬剤での拘束は行わないと決め、実行されている 日中の施錠に関しては意識として拘束に繋がる事を説明している	玄関は夜間のみ施錠しており日中は自由に入出りできる。外に出ようとする利用者には、少し離れて後から同行し様子を見て支援している。また、拘束については、内部研修を行い認知症自体をよく知るよう教育し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に職員にしてもらい、そもそも虐待とは、という基本的な事を学んでもらった ニュース等で問題になった場合等、職員で話し合いの機会とし、意識付けできる様に心がけている		

おばま温泉グループホーム湯之崎（ユニットほてい）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全員が制度に関しての知識があるわけではないが、研修等で学んだ者から全員へ研修報告を行い、制度の理解や必要性についての周知を図っていききたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は時間をとって頂き、解約の際はその後の対応必要あればその説明を、解約のみであれば預かり金の清算等、全て書類と共に説明を行って理解や納得を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者への表出は難しいが、職員等への要望がないかは月に一度の近況報告やケアプランの確認の際等に伺う様にしている	事業所内部及び外部に意見を表せる機会を設けている。特に、面会時には積極的に意見を聞くよう努めている。家族から入浴回数が少ないとの意見が出たため会議で対策を検討し、回数を増やすことを報告するなど意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	イベント時の対応や掃除道具の購入等、人員不足に伴う対処方法を職員が提案してくれ、それに応じている 職員間の連携等に関する相談に関しては依然解決に向け全員で思案中である	月1回の会議や朝夕の申し送り時に職員からの意見を聞いている。また、年に1度管理者との面談を設け、意見要望を聞く機会となっている。職員からの要望で除菌のできる空気清浄機の設置を実現させるなど、意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や勤務状況は把握できている更に一人一人レベル毎に評価シートに記入してもらい、その評価を元に改まった面談とまではいかないが、相談等無いかを確認する機会を設けた		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	近隣の中学校や特別支援学校の生徒の方の実習を受け入れる事により、職員の意識や意外な一面を見る事ができた 又、代表者が雲仙市グループホーム連絡協議会の研修広報委員をしており、研修内容や講師の選択等も職員の質の向上を意識でき、研修前後の変化も観察できる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡協議会の研修の内、年に一度以上行われる事例検討会には必ず複数の職員に参加してもらっている 又、半島のグループホーム連絡協議会主催の行事や懇親会に代表者と共に行きさせたり代わりに出席してもらったりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居された際はスタッフの声かけ、お話に傾聴を行いながら入居者様に孤独感を与えないよう努めている 又、入居当初は面会に来られる方も多いので一緒にお話を伺う中で情報を得たり関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会の際、又月に一度送付する近況報告にて入居者様のご様子を報告し、何か要望があれば気軽に出して頂ける様な雰囲気を作っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様や入居者様のご希望や入居者様の状態を伺いつつ、リハビリ等の対応を行っている 病院から直接入居となった方のご家族様がベッドに柵がない事を心配されていた際、福祉用具業者様に相談しベッドリースの手配に至った事もある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、料理の準備や洗濯物たたみ等、色々なお手伝いをして頂いている 入居前は何もして来なかったとおっしゃる男性入居者様にも同様にお手伝いを依頼し、快く引き受けて頂いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会に来られた際に、入居者様が職員に言えない様な訴えなどを傾聴し、職員に伝えて下さったり、ご本人様が書かれたご家族様宛のお手紙を送り、感謝の気持ちをお伝えしたりしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親戚や近所のご友人の方々の面会もあり、又イベントの際はホーム近所の顔見知りの方々との出会いの場となったり、その時々で関係が途切れないようにフォロー行っている	利用者の生活歴については随時間き取りを行い、馴染みの関係等を把握している。友人と会える機会である受診は、あえてかかりつけ医は変更せず病院で会えるよう支援している。また、年1回の同窓会に出席できるように取組むなど関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃一緒に作業して頂いたり、イベントには全員で参加して頂いたりして入居者様同士のコミュニケーションの場を作っている 又、ユニットを越えて会いに来られたり訪室しておしゃべりを楽しまれたり、お互いに秘密を打ち明けられたりして仲間を作られている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	疎遠であったご家族様に、看取り期間に入る前に会われる事を提案したり、ご家族様からの依頼で通夜を代わって執り行なったり、入院が長引き退去となった後も、遠方のご家族様に代わって洗濯物の対応を行ったりした		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人が今何をされたいのか、よく観察しつつ又傾聴しつつ、出来ない事は丁寧に説明をし、理解を求めている 介護の度合いもお一人お一人に差があり、それぞれの意向全てに対応できない事もあるが、把握出来る様努力はしている	通院時やトイレ誘導時、夜間などに利用者の思いを把握している。発語困難などの場合は、昔の習慣を参考にしたり家族に尋ねたりすることで思いの把握を行っている。把握した情報は会議などで共有し、支援に反映するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話をする中で今まで生活してこられた歴史や環境を理解出来る様にその方の話に耳を傾ける ご自宅からの入居、病院からの入居等入居に至る流れも含め、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	新しく入居された方の生活歴を知る事により、できそうな事を依頼するのはもちろん、判らない部分であっても、どこまで出来るかを先ずは見極める事に取り組むよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のミーティングや一日二回の申し送りの際、スタッフ間でお一人お一人その時々状態を話し合い、介護計画を作成したり日々の介護に繋がったりしている しかしご家族様とは綿密な話し合いできているわけではなく、職員全員が活発に意見やアイデアを出しているとは言い難い	アセスメントや基本情報、看護師や家族からの意見を基にケアプランを作成し、家族に説明し同意を得ている。作成したプランは職員に公開し情報を共有している。利用開始直後は1ヶ月でプランの見直しを行い、その後は3ヶ月に1度の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌やホーム日誌にその日の様子・観察した内容を、又受診録に受診結果を記入しており、お一人お一人の1日の様子を日誌にて共有する様にしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外泊時ご自宅まで送って行ったり、親戚の方に投票する為選挙にお連れしたり、遠方のご家族様に代わってお墓参りにお連れしたり柔軟に対応している 又、入居手続きの方法をご存知ないご家族様に、手続きの方法を説明し、関係各所への連絡を引き受けたりしている		

おばま温泉グループホーム湯之崎（ユニットほてい）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様のご要望によりリハビリ通院したり、ご親戚の美容室に行かれたり、町内のグループホームのお茶会に招かれたり、お孫様が出場される吹奏楽部の演奏会にお連れしたりと、お一人お一人の楽しみを支える努力をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様やご本人様のご希望があればそのかかりつけ医に継続して受診行う 又看取りの状態に入られた場合は再度ご家族様に確認をとりながら救急搬送より主治医の往診を望まれた為、最期まで主治医に対応をお願いした	協力医がかかりつけ医であった利用者も多く、心療内科も含めかかりつけ医を継続している。職員が付き添う事が多く、結果は受診録に記録し緊急時は電話で家族に連絡し、通常受診は毎月の便りで伝えている。協力医は歯科も含め往診を行っており、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度来訪される訪問看護師との連携により、受診までの相談をしたり質問をする事で不安を払拭する材料となったり、アドバイスを受けたりしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された際は、可能な限りお見舞いに伺い病状を確認しているが、病院側からは早期の退院を目指しているという姿勢が感じ取れない（ある病院に対する当ホームの偏った見解かもしれないが…）		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関しては、ご家族様も覚悟を決められてからの具体的な話し合いとなる事が殆どであり、ご本人様・ご家族様の希望に副う為に団結できている ご家族様が遠方にしかおられない方の葬儀に関しては、自治会長様や葬儀社の方に多大なるご支援を頂いた	利用開始時に重度化と看取りに関する指針の説明を本人、家族に行い同意を得ている。協力医、訪問看護とは24時間連絡が取れる体制である。事業所で最期を迎えたいという利用者もあり、実際に年に数件の看取りを行っているが、職員に対して看取り介護の教育が行われていない。	職員へは面接時看取り介護を行っている事を説明し指導を行っているが、精神的フォローも含め、事業所として看取りについてのマニュアルを整備し、教育の機会を設ける事を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	市のGH連絡協議会主催の消防署員指導による普通救命講習への参加を行っている 又重度化した入居者様の急変を経験させて頂く中で、知らず知らずの内に実践力が身につけている職員もいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回消防署員ご協力の下避難訓練を行っており、加えて今年度は自主避難訓練、地域の皆様にもお声をかけさせて頂き、消火訓練を実施する	平成25年は2回、消防訓練を消防署立会い、夜間想定を含め行っている。消火器は職員全員が取り扱う事ができ、災害マニュアルや緊急ファイルもユニット毎に設置してある。地域住民に回覧板にて訓練参加を案内しているが、自治会長様のみの参加であり、時間の都合がつかず、地域住民の訓練参加に至っていない。	災害時は地域の協力が必要であり、日程調整を行い、地域住民が参加する訓練の実施が望まれる。併せて、地震や津波に備え、風水害訓練を行う事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の居室へ入る際は一声かけて了解を頂いたり、入居者様同行の上入室する様にしている	個人情報や事務所で保管し、職員とは雇用契約時に秘密保持の誓約書を交わしている。ポータブルトイレを使用しない時はカバーして目に触れにくい箇所に保管している。利用者のバックグラウンドを深く理解し、利用者に応じた言葉掛けをするよう職員は周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	トイレの要望があった際は迅速に対応する様にしている 又、入浴の着替えの衣類はできるだけ入居者様に選んで頂く様にしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室での午睡を希望された場合は、余り長くない様に気をつけながら、出来るだけ希望に副う様にしている 又、買い物に同行して頂くなど、生活に変化をもたらす努力をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その季節に応じた服装をして頂く様心がけ、又外出時には入居者様の希望された服装をして頂く様支援している 会話が困難になられた方も、おしゃれがお好きだった事を常に意識し、男性職員ばかりであっても身だしなみに配慮する事を大事にしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の量はお一人お一人の体調に合わせて調整している 又、調理の際の野菜の切り込み等、入居者様にも参加して頂き、食事を楽しみの一つにして頂いている	利用開始前に嗜好調査を行い、開始後も食事での利用者の様子から好き嫌いを把握している。メニューは全職員で1週間分を考え、個々に応じた量や盛り付けを行っている。きざみ食や代替食も対応している。イベントのケーキやまんじゅう作りは利用者と一緒に作り、食事が楽しみになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時のお茶・吸い物の摂取、おやつ時のお茶の摂取は極力完飲して頂き、1日の水分量が不足しない様にしている 又、入浴後にはスポーツドリンク等で水分を補って頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけを行い清潔に保って頂き、自力で出来ない方には職員の介助にてケアを行っている 又、入居前には習慣のなかった方にも声かけ続け、応じて下さる様になった		

おばま温泉グループホーム湯之崎（ユニットほてい）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへ行かれる際、見守りのみの方、介助や支援が必要な方、ご自身でできる事はして頂いている 入院中オムツ使用であった方を、ご家族様に下着をお持ち頂きパッド使用にてトイレでの排泄へと切り替え喜んで頂いている	食事とおやつ前は必ずトイレ誘導し、夜間は時間を記録し職員間でパターンを把握している。利用開始前はおむつだった利用者も改善しており、現在おむつ使用の利用者はいない。職員はパッドの大きさを様子を見ながら変えるなど自立に向けた支援を行い、家族からも喜ばれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬に頼らず水分摂取量を把握し、十分な量を摂取して頂いている 排便がない日が続いた場合、便通により飲み物をお出ししたり腹部マッサージを行ったり便秘薬を調整したり、それでも出なければ職員間で話し合い、受診対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の日数が開かないようチェック表にて確認し、入浴声かけを行い入りたい方から入って頂いている しかし、職員の都合で入浴者数が限られる事もある	事業所内に温泉があり、24時間入浴の準備を行っている。皮膚疾患で温泉に入れない利用者には水道水で対応している。入浴拒否時は無理強せず清拭や足浴を行っており、又、時間をずらしての言葉かけや浴室の近くまで行く事で、気分が変わり入浴する利用者もおり、個々に合った支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息を希望される方には昼夜逆転しない程度の午睡をとって頂く様にしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診への同行者が受診録を記入し、薬の説明や医師の指示を全職員へ伝え、その後の対応・支援を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性の入居者様が多く、家事・炊事は取り合いになる事もあり、終わった後の職員の感謝の言葉を喜んで下さっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やご自宅付近へのドライブ等、出来る時と出来ない時があり、その分地域のイベントの際は皆様での外出を楽しんで頂ける様にしている 職員と一緒にお酒を飲みに行かれる等も楽しまれている	個々の外出希望に沿って近くのスーパーや喫茶店へ出向いたり、全体で花見や湯祭りに出掛けている。同窓会、敬老会に参加する利用者もいる。帰宅願望の強い利用者には家族の協力を得て外泊も行っている。希望表出が困難な利用者には職員が尋ね、本人の希望を把握し外出支援に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の出来るお力により、又ご家族様のご希望により、お一人お一人違った対応をさせて頂いている 小額の金銭はご自身で所持されていたり、お一人だけご自身で通帳まで管理できる方もおられるが、殆どの方はホームにて管理させて頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	やはりお一人お一人の出来るお力によるが、自筆が困難な方場合は職員と共に書いて頂いたり、書かれたお手紙をご家族様にお送りすると、大変喜ばれ、特に遠方のご家族様は安心して下さった 又電話のご希望あれば支援させて頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	長く寛げる様に努めてはいるが、手持ち無沙汰になられると居室へ戻られてしまう方もおられる 年齢等も考慮し、一休みして頂くが、自ら再びリビングに戻って来られると、人の存在を感じられる安心感を感じておられる表情をされている	日中は利用者全員リビングに集まり、食事の準備や洗濯物たたみなど出来る事を行っている。利用者の作った人形や草履を飾り付けしたり、演歌のDVDを流したりと楽しい空間づくりに努めている。特に臭いには気をつけており、空気清浄機を設置して居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間においては作業・TV・音楽鑑賞等に参加して頂き、楽しく居心地の良い空間作りに努めている 時には入居者様同士の間で職員が入り、交流を深めて頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用されていた物、ご家族様の写真等を身近に置き使用する事によって居心地の良い安心できる居室作りに努めている ご位牌やお写真等を祀られている方には供え物等の支援をしている	自宅に置いていた位牌やミンなど自由に持ち込んでいる。居室は海側と山側で和室と洋室があり、和室は広く家族が宿泊することもある。3階の窓から公園や土産物屋などの町並みが見渡せ、利用者は眺めを楽しんでおり、居心地よい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在の入居者様で独歩可能な方は、トイレやご自身の居室の場所は記憶されている お分りにならない場所はその都度同行して確認して頂いている ホーム内での行動は職員の見守りや行き先を告げて頂きなるべく自由にして頂いている		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4 2 9 2 4 0 0 0 5 0		
法人名	株式会社グループホーム湯之崎		
事業所名	おばま温泉グループホーム湯之崎（ユニットえびす）		
所在地	〒854-0514 雲仙市小浜町北本町字湯之崎905番地32		
自己評価作成日	平成25年12月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の日課という事ではなく、限られた時間の中でその日に出来る事を考え、入居者様からの笑顔を引き出す努力をしている</li> <li>・全職員がその日の段取りを考え動いている訳ではないが、病院受診や入浴に限らず何らかの楽しみを入居者様に感じて頂ける様に日々考え、作業一つも楽しくして頂ける様に努めている</li> <li>・月に一度のミーティングは、出来る限り全職員が参加し、お一人お一人の『今』について熟考し、全員で作り上げる介護計画となっている</li> <li>・認知症+“うつ”という難しい事例の方に、日々全職員がそれぞれに悩み、懸命に対応している</li> <li>・加齢と共に出来なくなる事を受け入れるのみではなく、きっかけは判らずとも再び能力が蘇る事もあり、その事をご家族様も含めて共に喜び合い、出来る作業を増やしていく事のできる職員である</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は玄関や事務所に掲示してありいつでも確認することができる 特に理念を唱える時間を設けてはいないが、毎日の申し送りや月毎のミーティング時に常に啓発できており、実践の努力も認められる		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏休み期間中、自治会の回覧板により子供の数減少によりラジオ体操への参加を募られている現状を知り入居者様をお連れした 又、一年を通してほぼ全ての町の祭に参加しご家族様や知人に会われている 例年餅つき大会には地域の方を招待して喜ばれている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において施設長参加のレビー小体型認知症研修会の研修報告書を説明した事があり、その内容を聞かれた民生委員の方より民生委員の研修会にて内容説明の依頼を受け、ホームにて説明会を行うという経緯があった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の入退去・入退院状況、その時々での取り組み・イベントやブーム等の報告を行い、それに対するご意見を伺っている こちらの情報発信はもちろんのこと、様々な角度からの情報を頂けるので大変有り難く、又職員への報告も都度行っている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小浜支所から突然の入居相談の申し出があり、出向くと入居希望ご本人様からの相談を受けられていた 当ホーム対象者(認知症)ではなかったが、市職員の方と一緒に相談に乗り説明を行った		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご家族様のご理解の下転倒の危険性のある方の布団の下にセンサーを設置させて頂いているが、それ以外の身体拘束や過剰な薬剤での拘束は行わないと決め、実行されている 日中の施錠に関しては意識として拘束に繋がる事を説明している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に職員にしてもらい、そもそも虐待とは、という基本的な事を学んでもらった ニュース等で問題になった場合等、職員で話し合いの機会とし、意識付けできる様に心がけている		

おばま温泉グループホーム湯之崎（ユニットえびす）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全員が制度に関する知識があるわけではないが、研修等で学んだ者から全員へ研修報告を行い、制度の理解や必要性についての周知を図っていききたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は時間をとって頂き、解約の際はその後への対応必要であればその説明を、解約のみであれば預かり金の清算等、全て書類と共に説明を行って理解や納得を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者への表出は難しいが、職員等への要望がないかは月に一度の近況報告やケアプランの確認の際等に伺う様になっている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	イベント時の対応や掃除道具の購入等、人員不足に伴う対処方法を職員が提案してくれ、それに応じている 職員間の連携等に関する相談に関しては依然解決に向け全員で思案中である		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や勤務状況は把握できている 更に一人一人レベル毎に評価シートに記入してもらい、その評価を元に改まった面談とまではいかないが、相談等無いかを確認する機会を設けた		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	近隣の中学校や特別支援学校の生徒の方の実習を受け入れる事により、職員の意識や意外な一面を見る事ができた 又、代表者が雲仙市グループホーム連絡協議会の研修広報委員をしており、研修内容や講師の選択等も職員の質の向上を意識でき、研修前後の変化も観察できる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡協議会の研修の内、年に一度以上行われる事例検討会には必ず複数の職員に参加してもらっている 又、半島のグループホーム連絡協議会主催の行事や懇親会に代表者と共に行きさせたり代わりに出席してもらったりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の住まいが施設(老健)であった場合その施設より情報提供して頂き、又それまでの生活についてはご家族様にお聞きして、出来る限りご本人様の要望と合わせて入居後の介護計画にも反映できる様にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至る際ご紹介頂いた仲介(病院や施設の相談員やケアマネ)の方から有る程度お聞きできれば聞いておき、契約の段階で更に直接お尋ねし、なるべく早期に暫定の介護計画を作成、状態観察しながら計画を練り直し、ご家族様にその都度説明・相談を行う様にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様のご要望や、その時に必要な支援が何かを全員で話し合い、リハビリや精神科の受診等、必要と思われるサービスや支援を受ける事が可能かどうかご家族様に相談する様にしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日々変化のある入居者様のできる事/できない事を把握しており、その場でできておられる事には手を出さず、少しの手伝いでできる事や時間を置けばできる事、気が向けばできる事等を感じて適度に介助を行っている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様とご家族様とのそれぞれの関係性を考えつつ、ご家族様へ協力をお願いしている。入居後ほぼ帰宅された事のない入居者様が、ホームイベントへの参加に気乗りされず、ご家族様にお願いし初めての外泊や、毎年ホームでの誕生日会に商売をされている為殆ど参加できないご家族様をお願いし、外食にて水入らずの席を設けたりと、色々な角度から支援させて頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	受診の際や、地域の祭に出向いた先で、知人の方に会われ、入居者様の方から話しかけられたりという事があると、職員がその間に入り以前の関係性等をお尋ねし、会話のフォローを行っている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で餡や果物などを貰い合ったり、ご家族様からの贈り物などがあつたりした時は、皆様で挨拶し合える様に職員がお手伝いをしている。諍いが起こってしまった場合は両者の言い分を聞き、勘違い等あれば説明し関係の修復に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により一旦退去された入居者様のご家族様が、看取りの覚悟を決めご自宅へ引き取られたものの、認知症状の対応に苦慮された挙句再入居の場として当ホームを選んで下さった		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居生活が長くなるに従い、理解も深まり求められている事も読めておりそれが正解である事も増えるが、入居生活が未だ短く、更にその方が精神的な病をかかえておられると、その把握が困難で対応に四苦八苦している現状がある		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居生活が長い方は有る程度生活歴は把握しているが、それでも新しい発見や、状態が改善する事で知る昔のお姿等もあり、入居期間に関わらずその時々把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回のバイタルチェックの実施、入浴時の身体の観察、食事量や表情等にてお一人お一人の体調を把握し、申し送りにてきちんと報告できる様にしている。心身状態に関しては、行き届いていない部分もあるかもしれないが職員一同お一人お一人の事を把握しようと努力している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人別に担当者を決めており、より深く個々の理解に努めている。又、月に一度全職員揃ってのミーティングを行い、意見交換・情報交換を行っている。3か月に一度見直す介護計画はプラン開始前に説明し同意を得、その際要望等ないかの確認をする様にしている。3か月毎に送付も行う		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌・ホーム日誌・受診録と使い分けを行い、特変や1日の出来事を詳細に記入し、日々の状況を解る様にし一日2回の申し送りでの伝達も確実にやっている。ミーティング時にはその全ての内容を振り返り見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出・外泊はご本人様・ご家族様の要望に応じて対応している。入居者様の気分転換の為にドライブや衣服の購入に出かける支援を行っている。地域との交流も柔軟に対応している。又、ご家族様の困っている事をお聞きし、その時に合った支援を行える様心がけている		

おばま温泉グループホーム湯之崎（ユニットえびす）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人福祉センターでの暮会やリハビリ・整骨院に通われたり、自身の誕生日のお菓子を注文に行かれたり、ご家族様の協力を得ながら法事や外食に出かけられたり、又ご親戚や旧知のご友人の来訪もあり、地域資源との協働は比較的できている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの方が入居前より診て頂き信頼を置かれている医師の元へ通院され、続けて主治医になって頂いている 又状況に応じてご本人様やご家族様と相談の上往診して下さる医師や、ご希望の医師へ主治医変更を行っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護契約先の変更により、近隣の個人病院看護師にみて頂く様になった為、何かあった際の相談や対応が早急に行える様になった		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	全ての職員が詳細情報を伝える能力があるとは言えない 又、個人情報の保護の下、入院中の症状等の伝達を直接看護師より伺えないという事もあり、ご家族様を介しての情報収集は内容もタイミングもズレがある事は否めない		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様・ご家族様への希望に出来るだけ副える様アンケートや聞き取りを行っている 又、主治医への協力依頼を事前に行った経緯も有る		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルの活用、市のGH連絡協議会主催の消防署員指導による普通救命講習への参加を行っている しかし、全員での訓練(特に急変時の対応)は不十分かと思われる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの活用、又消防署員指導の下の定期的な訓練はもちろんの事、自主避難訓練を実施したりしている その際、勤務していないユニットの入居者様の身体状況等の把握が出来ていない事に気づく機会となった		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の性格や会話の傾向等を理解し、場所を移動する等して会話している その場を離れる際等、個人日誌はファイルに挟んだり裏返しにしたりしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様から入浴のご希望あれば一緒に服を選んで入浴へお連れしている 身体の痒みのある方や失禁された方がおられれば、そのタイミングで声をかけて入浴にお誘いしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	前夜に睡眠不足あったり、自覚の有無に関わらず体調不良等見られたりすれば、居室にて入眠又は休んで頂く等の対応をしている 又、病院受診・リハビリはスケジュールを合わせ体調を見てお連れしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の好みの服・色など決めて頂き着用されている こだわりの強い方にも、季節や気温に合わせた服装を提案する等、お手伝いしている 特にマニキュアを気に入られた方に至っては、不穏時に気持の治まる効果も認められた		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	歯が一切ない方もおられ、全体に柔らかく調理するが、硬い物は小さく切ったりすりおろして提供している お一人お一人の食欲や体重の増減等を考え、量の調整をしている 食器もその方に合った形態の物を使って頂く様にしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いのある方も完食される様に代替や量の調整を行っている 更に食後にジュースやホットミルク・ココア等、ご希望によっては果物や栄養ドリンク等を提供し、十分な水分補給を心がけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後・寝られる前に口腔ケアの声かけを行っている 磨き残しのある方や介助の必要な方にはそれぞれに応じた介助を行っている 義歯使用の方には洗浄剤を使用している		

おばま温泉グループホーム湯之崎（ユニットえびす）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は食事の前・おやつの前にトイレにお誘いする等の声かけを行ったり、トイレに行きたい様子等を、席を立つ・杖を持つ・職員をしきりに呼ばれる等の動作から誘導行ったりしている 又夜間は時間を決めたりポータブルトイレを利用する等している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給は随時行い、歩行運動等で薬に頼るばかりではない様にしている 排便の有無をチェックし必要に応じて医師に相談を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調やその方のスケジュール等を考慮し、お一人お一人入浴をして頂いている 毎回その方の都合に合わせる事は出来ないが、出来る限り希望された方には入浴して頂いている 少なくとも週2回は入って頂いている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の様子を日誌や申し送りで確認し、不眠だった方には、日中休んで頂いたり、不眠の原因を解消する様にしている 又日中は出来るだけ活動して頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診には職員が同行し、医師への報告や相談、医師からの指示等をきちんと記録し、全職員が周知する様に努めている 服薬される際、きちんと服用されたか確認する様にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や洗濯物等お一人お一人の能力に合わせ、作業をして頂いている 誕生日会や餅つき大会などホーム内での行事に加え、町内の祭であるほかほか寄市や町の文化祭などへ外出され楽しんで頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夕飯の買出しや受診に出られた際に、ご自宅やその近隣に立ち寄りして頂いている 又、ご家族様にも協力頂き、ご家族様経営のスナックに飲みにお連れしたり、年に一度ではあるが、旧制中学校の同窓会にお連れしたりしている		

おばま温泉グループホーム湯之崎（ユニットえびす）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身での管理を希望される方は、ある程度の額を把握させて頂いた上で、買い物や現金引き出し等、ご希望に応じて同行を行っている 管理のできない方はお預かりする事を了承頂き、出し入れの都度出納帳に記載し管理を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	書中見舞い・年賀状・贈り物へのお礼状等、書かれる意思の見える方には職員と一緒に書く等のお手伝いをし、出来るだけ遠方のご家族様との関係が保てる様にしており、書けない方や話したい意思のある方にはスタッフが取り計らい電話で話して頂くお手伝いをしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝の清掃時室内の空気は換気を行い、リビングは季節に応じた飾りつけを行っている トイレは毎日清潔に使用出来る様に心がけており、入居者様の居室は居心地の良い空間になる様に気をつけている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル毎に皆様でできる作業をお願いしたり、音楽がお好きな方々が多く、歌のDVDを流し皆様に口ずさまれたり、仲の良い入居者様同士の居室を行き来できるお手伝いをしたりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつもご家族様と繋がっている事が判る様に、ご家族様の写真を飾ったりしている 又、常に移動して居場所を探そうとされていた時、ご家族様に協力頂き、居室にCDプレイヤーを置き、大好きな歌手のCDを聴いて頂く等の工夫をした		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所の表示はあるものの認識できない方にはその都度説明したり、ご自身の居室がわからない方にも表札を確認して頂いたりしている		